



入館無料

(特別展は有料)



COCOFURU NEWS PLUS
ココふるニュース+



申し込みと
問い合わせ先

心のふるさと館 [〒816-0934 曙町3-8-3]

●休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日) ●開館時間 午前9時~午後7時



令和7年度ココふるカレッジ 「竹田家文書関連講座」



心のふるさと館では、大野城市牛頸に伝来した福岡県指定有形文化財である「竹田家文書」を収蔵しています。貝原益軒の手紙などからわかったことを、さまざまな視点からわかりやすく紹介します。

●日時・講師・演題

◇令和8年1月18日(日) 午後2時~4時
講師 大庭卓也さん(久留米大学文学部教授)
演題 竹田春庵の学問と人物像

◇令和8年3月13日(金) 午後2時~4時
講師 川部瑞代さん(福岡県立図書館ふくおか資料室)
演題 近代の日記からみる竹田家の資料 -福岡県立図書館所蔵貝原益軒書簡を中心に-

●会場 心のふるさと館M2階 講座学習室

●定員 80人(申込多数の場合は抽選)

●申込方法 ◇申込フォーム◇総合案内窓



口◇FAX(講座名・氏名・住所・電話番号を記入)

●申込期間 12月15日(月)~令和8年1月14日(水)

一般社団法人大野城市にぎわいづくり協議会プレゼンツ 「大野城の宝フォトコンテスト2025」作品展



「笑顔」をテーマに市民より募集したフォトコンテスト作品のうち、入賞した6枚の作品を展示します。

●日時 令和8年1月14日(水)~18日(日) 午前9時~午後7時

●会場 心のふるさと館1階
ジョーホール



心のふるさと館ミュージアム担当

☎(558)5000 ㊚(558)2207

✉cocofuru@city.onojo.fukuoka.jp

あけてみよう!

歴史のとびら

195

大野城心のふるさと館のおすすめ②4

〈戦争の記憶 山上高太郎日記〉

今から80年前の昭和20年はアジア太平洋戦争の終結と米軍の進駐と、大野村(現在の太宰市)にとって激動の年でした。戦中の大野村は国道や鉄道を使った都市部などへの物資の輸送が容易なことなどから、戦闘機や魚雷の部品を製造する軍需工場があり、また多くの米を国に供出する農村地帯でもありました。

大野村長であった山上高太郎は日記に、召集や戦死者の氏名を一人一人記録し、大刀洗大空襲の後、加速した軍需工場の地下疎開化、村民の避難計画の策定などを事細かく記していました。昭和20年4月23日から村内で本土決戦の準備が始まると、「村民が知ったら、定めて吃驚(おどろ)仰天(おどろ)だろう」と案じ、6月の麦刈りと陣地構築への村民の出勤が重ならないように何度も軍と交渉を行い、戦時体制の中でも村民のために奔走していた様子が伺えます。

8月15日には玉音放送を聞いて涙を流し、「断腸」「永遠の希望はあっても局面的に視るならば希望なき民族である。心の暗さは思う程、深く

なるのだ。重くなるのだった。」と村長として日本の敗戦を受けとめた心情を記しています。

戦争から80年が過ぎようとする中、戦争体験者の高齢化に伴い、証言が得にくくなる一方で、近年ではこのような日記などの記録資料が重要になってきています。

行政の最前線に立たされていた長としての目線で、戦中戦後の村役場の情報や時々の心情を書き留めた山上高太郎日記は、今年10月、大野城市に寄贈されました。

心のふるさと館では令和8年1月10日(土)から3月8日(日)まで、昭和20年の山上高太郎日記を中心に、戦争関連資料を展示する「戦争の記憶展」を開催します。



昭和20年の
山上高太郎日記

●問い合わせ先

心のふるさと館文化財担当

☎(558)2206